

中期経営計画 「プラン“BEGIN”」のもと、 重点ターゲット分野での 業容およびシェア拡大を目指し、 積極的にM&Aを展開。

日立電線グループは、中期経営計画「プラン“BEGIN”」のもと、基盤製品の強化を図るとともに、重点ターゲット分野へ経営資源を積極的に投入することで日立電線グループ全体の成長を推進しています。特に2008年3月期後半には、2009年3月期以降の大きな成長を実現するため、重点ターゲット分野を中心に複数のM&Aを実施しました。これらの中から、液晶用COF、自動車用ブレーキホース、医療用プローブケーブルにおけるM&Aについて、目的および今後の展望について紹介します。

※本文中に記載されているシェアは当社推計値です。

液晶パネル需要の拡大とともに、継続的な成長が見込まれるCOF市場。競合他社の事業譲受けによって、トップシェアへ。

シナジー効果の最大化によりフィルムデバイスメーカー No.1を目指す。

エレクトロニクス分野において当社グループが注力している事業のひとつがTAB (Tape Automated Bonding) です。

これはフィルムを使った半導体用パッケージ材料であり、当社グループでは業界に先駆けてTABの量産技術を確立してきました。このTABを応用した製品がCOF (Chip On Film) で、液晶ド

ライバー IC用パッケージ材として、テレビやパソコンの液晶に搭載されています。当社グループでは、COFと、メモリー用TAB、その他特定用途TABを、バランスよく展開することによって、市場変動のリスクを分散させながら、さらなる成長を目指す戦略を推進しています。

COF市場は、今後5～7%の成長が予測されるものの、足下は急激な価格下落によって市場環境が悪化しており、当社グループでは2008年3月期に甲府事業所のCOF製造設備を減損処理するに至っています。このような状況を踏まえ、当社グループでは、COF事業の足下の業績を改善するために、

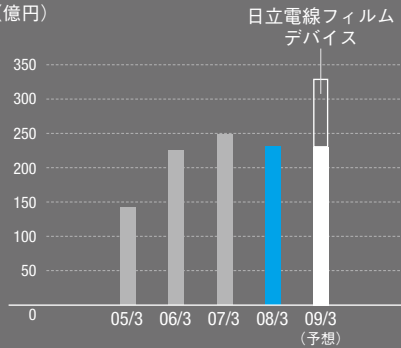
また、さらには将来の成長を実現するために、カシオマイクロニクス株式会社のCOF事業を譲受け、2008年6月1日より日立電線フィルムデバイス株式会社として営業を開始しました。

COF事業の今後の展望

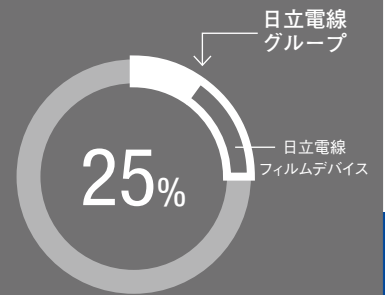
COF事業については、事業譲受けによるシナジー効果の最大化により業績の改善を目指します。規模の面では、本件により、当社グループの生産規模は従来の2倍以上、シェアは25%とトップとなる見込み(2009年3月期予想)であり、市場において確固たるポジション



TAB 事業売上高 (億円)

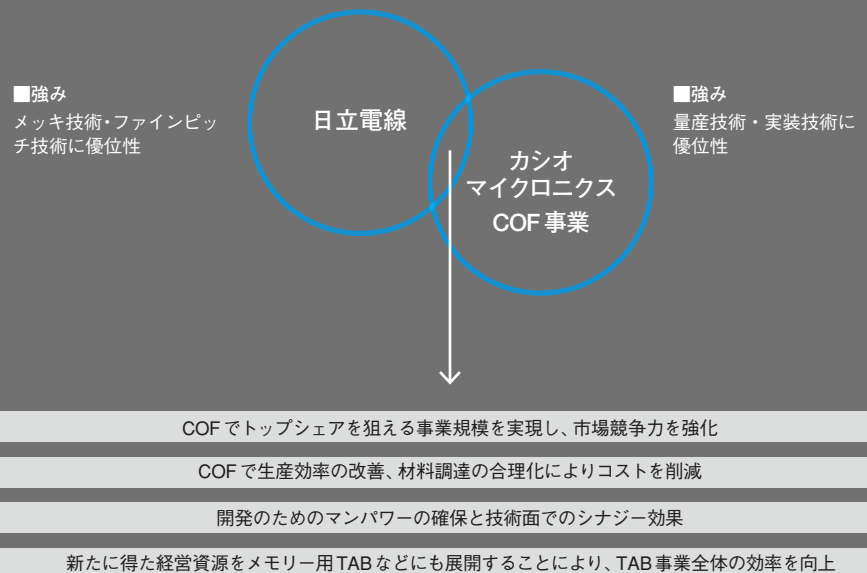


COF 世界シェア



COF 事業の譲受けがもたらすメリット

カシオマイクロニクス社のCOF事業を譲受け、2008年6月1日より同事業を日立電線フィルムデバイスとして営業をスタートしました。両社の強みを統合することによる主なメリットとして次の4点があげられます。



を獲得しました。また、両社のノウハウを集約することにより、生産効率の改善や材料調達の合理化を図るとともに、設計・開発・営業などの一体化により間接費を削減するなど、価格競争力の強化にも努めます。さらにリソースの集約によって技術開発力も強化し、今後はさらなるファインピッチ製品の開発で業界をリードしていきたい考えです。

メモリー用TABなどとのバランス運営によりTAB事業全体の効率を向上

今回の事業譲受けにより得た経営資源をメモリー用TABなどへも展開するこ

とにより、TAB事業全体としても事業の強化を図ります。

当社のメモリー用TABや特定用途TABは、これまで堅調に推移しており、今後もDRAMのパッケージ材としての市場拡大が見込まれることから、早急に生産能力を増強する必要があります。しかし、新規の設備増強については投資額が高額であるうえ、完成・立ち上げまでの時間が課題となっていました。そこで、今回の譲受けにより余剰になったCOF用設備をメモリー用TABなどに転用することで、機動的に、最小限の投資で、生産能力の増強を実現することが可能となりました。特定用途TABにおいて

も、今回獲得した開発リソースを活用し、プリンターや医療用などTAB応用市場の開拓を図っていきます。

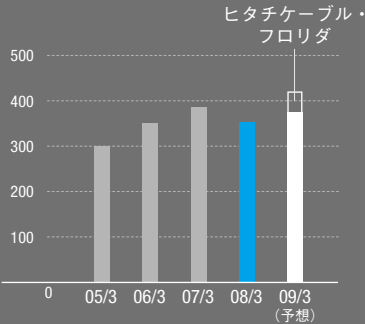
これらの施策により当社グループは、COF、メモリー用TAB、特定用途TABをバランスよく運営し、フィルムデバイスメーカーとしてNo.1の地位を目指します。当社グループのTAB事業の売上高は2008年3月期の231億円に対し、2012年3月期には500億円を目指します。



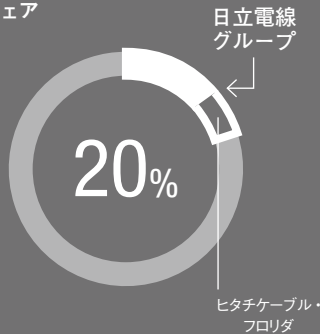
北米で事業を譲受け、 新会社を設立。 世界最大の自動車用ブレーキホースメーカーへ。

優れた品質により、30年以上にわたりリコール件数ゼロ、世界トップクラスのシェアを維持してきた当社グループの自動車用ブレーキホース事業。北米での事業譲受けにより、トップメーカーとして地位を確固たるものにしました。

自動車用部品事業売上高
(億円)



自動車用ブレーキホース
世界シェア



ハイライト

北米で新会社「ヒタチケーブル・フロリダ社」
を設立し、グローバル体制を強化

売上高：110億円(2008年3月期)から
180億円(2009年3月期)に

シェア：北米市場で22%から40%超へ、
世界市場で14%から20%超に

自動車用ブレーキホースメーカーとして
世界最大の事業規模を達成

トップメーカーとしての地位を確固 たるものにする事業譲受け

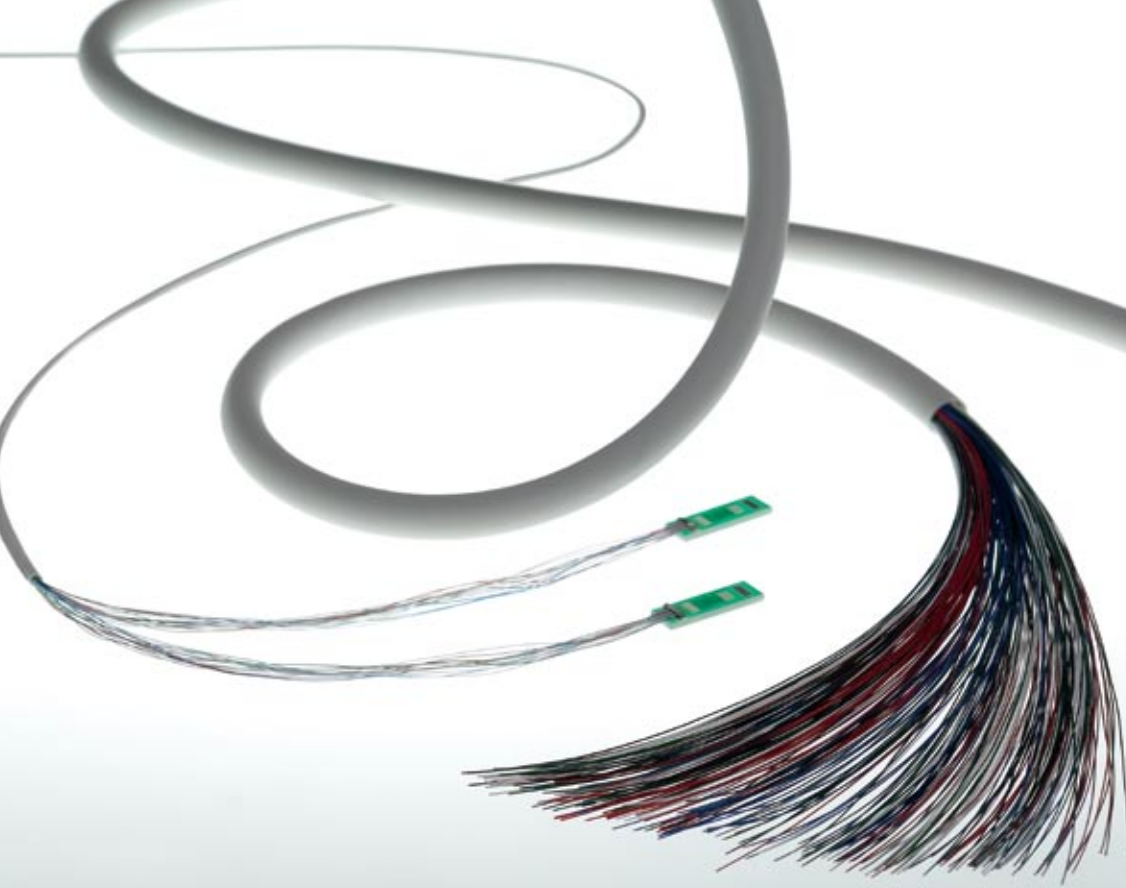
自動車用ブレーキホースは、自動車にとって最も重要なブレーキ機能を支える重要保安部品で、自動車走行時に飛散する泥や水、悪路での振動・屈曲などさまざまなストレスに耐える高い品質が要求されます。当社グループのブレーキホースは、低膨張・高耐久性に優れ、世界の主要自動車メーカーで採用されるなど世界トップクラスのシェアを維持してきました。また最近では、世界規模での製品供給体制の構築に注力しており、2007年に

はタイ、中国において新工場・新ラインを稼働させました。

このようなグローバルな事業体制をさらに強化するために、当社グループでは2008年2月29日、北米の自動車部品メーカーから自動車用ブレーキホース事業を譲受け、新会社ヒタチケーブル・フロリダ社(Hitachi Cable Florida, Inc.)を設立しました。これまで当社グループの北米市場における自動車用部品事業は、日系自動車メーカーが主な顧客となっており、ビッグ・スリーと呼ばれる北米自動車メーカー向けの取引拡大が大きなテーマとなっていました。一方、ヒタチケーブル・フロリダ社

の前身であった北米自動車部品メーカーは、フォードおよびクライスラーと強固な取引関係を築いていることに加え、ブレーキホース組立に関連する樹脂モールド分野などで高い技術力を誇っています。

今回の事業譲受けにより、当社グループの自動車用ブレーキホースの売上高は2008年3月期の約110億円から2009年3月期において180億円に拡大する見通しです。また、シェアは、北米市場で22%から40%超へ、世界市場で14%から20%超に拡大。世界トップシェアの地位を確固たるものにし、世界最大の自動車用ブレーキホースメーカーになります。



超音波診断装置用 プローブケーブルで 世界トップシェアの獲得を目指す。

当社グループの極細同軸ケーブルは、ノートパソコンやデジタル家電などさまざまな電子機器に採用されていますが、その中でも医療分野では高いシェアを確保しています。今回、欧州の超音波診断装置用プローブケーブルメーカーの買収により、さらなる事業拡大を目指します。

欧州に優れた開発・製造拠点を獲得

超音波診断装置は、体表に当てたプローブ（探触子）から超音波を体内に送り、その反射波を測定することで、臓器などの断層画像をリアルタイムに検査する医療用機器です。当社グループでは、この超音波診断装置に用いられるプローブケーブルにおいて世界トップシェアの獲得を目指したグローバルな事業を展開しています。

その戦略を推進するために2008年7月に、オーストリアのアストラル・メディテック社 (Astral Meditech

GmbH) の株式を取得して子会社化し、ヒタチケーブル・オーストリア社 (Hitachi Cable Austria GmbH) と社名を変更しました。世界の主要市場のひとつである欧州でのエンジニアリングや提案機能を強化しました。

アストラル・メディテック社は、高い設計力・技術力および生産技術力によって、顧客である大手医療用機器メーカーから高い評価を得ています。

当社グループは、アストラル・メディテック社の株式を取得し、子会社とすることで、欧州において超音波診断装置用プローブケーブルの優れた開発・製造

拠点を獲得し、より高度な回路基板、金属・プラスチックパーツなど周辺部品の設計力を得ることができました。

今回の株式取得をてこに、世界的医療用機器メーカーへの拡販を図り、2011年3月期には超音波診断装置用プローブケーブルの年間売上高を100億円、シェアをワールドワイドでNo.1の40%以上とすることを目指します。

ハイライト

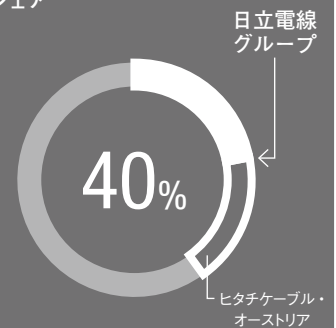
買収により、欧州での開発・製造拠点を強化

売上高：40億円（2008年3月期）から100億円（2011年3月期）に

世界シェア：20%（2008年3月期）から40%超（2011年3月期）に

開発・製造拠点を拡充により、世界トップメーカーを目指す

超音波診断装置用プローブケーブル
世界シェア



機器用電線・配線部品事業売上高

(億円)

ヒタチケーブル・オーストリア

